



平成 18 年 11 月 14 日

各 位

会社名 株式会社 東栄リーファーライン

(URL <http://www.toeireefer.co.jp>)

代表者名 代表取締役社長 崎山 昌明

(JASDAQ・コード 9133)

問い合わせ先 常務取締役 山口 豊

(TEL 03-5476-2085)

平成 19 年 3 月期中間 (連結・単独) 業績予想との差異および
通期 (連結・単独) 業績予想の修正に関するお知らせ

平成 19 年 3 月期 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日) の業績予想について、中間 (連結・単独) については平成 18 年 8 月 4 日付当社「平成 19 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況 (連結) および中間の (連結・単独) 業績予想の修正」ならびに通期 (連結・単独) については平成 18 年 5 月 16 日付当社「平成 18 年 3 月期決算短信 (連結) 」および同日付「平成 18 年 3 月期個別財務諸表の概要」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

1. 平成 19 年 3 月期 連結業績予想の修正等

(1) 中間期 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 9 月 30 日)

(単位 : 百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	6,000	130	80
今回修正(B)	6,297	142	176
増減額(B-A)	297	272	256
増減率	4.9%	-	-

(2) 修正理由

貿易事業および洋上給油事業につきましては、売上、利益ともにほぼ当初の計画どおり推移しました。

しかしながら海運事業におきましては、オーストラリア蓄養まぐろ加工運搬事業投入の 2 隻はほぼ計画どおりではありましたが、運搬事業は燃油高に加え、漁獲規制、漁船の減船、魚価の変動などの影響をもの受け、まぐろ運搬船のうち半数以上の船が航海日数の増加、積み付け率の低下などにより、利益面で当初計画を大幅に下回る結果となりました。また、インドネシアでのえびの運航船も現地燃料油高騰のため操業船の停止などにより生産が激減し、集荷・積み付け率の悪化でほぼ全航海で赤字となったため、上期においてこの航路より撤退することになりました。

さらに、子会社所有船 3 隻および裸備船 1 隻の検査修繕、改造などが同時期に重なり、不稼働による収益減および船舶修繕費・消耗品費のコスト増、負担をもたらしました。この結果、海運事業では計画に比べ売上高は微減ではありましたが、大幅な減益となりました。

また、連結では営業外収益で子会社からの受取配当金など 1 億 3 百万円が相殺消去されて、営業外費用で当中間期よりタイ、ベトナムの関連会社で持分法を適用したことにより投資損失 1 千 5 百万円を計上しております。

このような状況により、当初計画に比べ売上高はわずかに増加しましたが、経常利益、中間純利益とも赤字となりました。

(3) 通期 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	12,700	600	340
今回修正(B)	12,500	230	100
増減額(B-A)	200	370	240
増減率	1.5%	61.6%	70.5%

(4) 修正理由

下期につきましては、貿易事業は水産加工関連事業が幾分貢献しますが、既存の水産物、漁具資材などの輸出入およびまぐろ輸入代行業は魚価の下落、台湾マグロ漁船の減船の影響などで当初計画を売上、利益とも下回る見込みであります。

洋上給油につきましても、燃料油の高止まり、日本漁船の経営不振、運搬船 1 隻の蓄養加工への転用などで利益は下がる見込みであります。

海運事業につきましては、3 隻投入の地中海蓄養まぐろ加工運搬事業は相当の収益をあげる予定であります。まぐろ運搬事業は減船、魚価の変動、需給バランスの崩れから、集荷および水揚げを含む航海日数の延び、積付け率の低下など厳しい状況が予想されます。

下期もこのような状況下で、地中海蓄養まぐろ加工運搬事業でかなりの盛り返しをみせますが、上期の収支の悪化を補うまでにはいたらず、通期の予想は、当初計画を売上高は微減、経常利益、当期純利益とも大幅に下方修正することになりました。

(5) ご参考：前期の実績 (平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期	6,815	432	225
通期	13,269	500	304

2.平成 19 年 3 月期 単独業績予想の修正等

(1) 中間期 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	6,000	270	180
今回修正(B)	6,301	73	31
増減額(B-A)	301	197	149
増減率	5.0%	72.9%	82.7%

(2) 修正理由

貿易事業、洋上給油事業につきましては、売上、利益ともにほぼ当初の計画どおり推移いたしました。

しかしながら、海運事業におきましては、まぐろ漁獲規制、漁船の減船、魚価の変動などの影響を受け、運搬船の半数以上が航海日数の増加、積み付け率の低下などのより、利益面で当初計画を大幅に下回る結果となりました。

このような状況下により、売上高は増加しましたが、経常利益および中間純利益ともに大幅な減額となりました。

(3) 通期 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	12,700	670	380
今回修正(B)	12,500	348	200
増減額(B-A)	200	322	180
増減率	1.5%	48.0%	47.3%

(4) 修正の理由

下期につきましては、当初計画に比べ貿易事業はわずかではありますが、減収、減益、洋上給油事業につきましては、わずかながら増収、減益と予想されます。

海運事業につきましても、地中海蓄養まぐろ加工運搬事業は計画どおりの収益をあげますが、まぐろ運搬事業は厳しい状況が続くと予想されます。

下期はこのような状況下で、かなりの盛り返しをみせますが、上期の収支の悪化を補うまでにはいたらず、通期の予想は、当初計画を売上高は微減、経常利益、当期純利益はともに大幅に下方修正することになりました。

(5) ご参考：前期の実績 (平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期	6,814	485	279
通期	13,270	478	284

以上